
言語研究センター共同研究

「ロシア語学習・教育におけるレアリアの 内容と位置づけに関する研究」活動報告

堤 正典・小林 潔

ここでいうレアリアとは、当該国の言語文化に関する知識のことで、特にその言語運用を支えるものを想定している。このような知識がないと言語学習にもまた実際の使用にも支障が生じる。だが、教育時に何もかも取り上げるわけにはいかな

いので、神奈川大学という現場を念頭におきながら取捨選択する必要がある。

本年は、関連する学内の他の共同研究や学内外の科研費プロジェクトで得られた知見をも活用しつつ調査と研究を進めた。ロシア以外の諸外国で

のロシア語教育やそこでの教材をも検討した。特記に価するのは、9月のモスクワ、ペテルブルクでの調査とフィンランドでの学校見学である。ヘルシンキのロシア学術文化センターのロシア語教室では「フィンランドがロシアから得たもの」をテーマとしており、また露芬バイリンガル学校で

は若者文化を媒介とした教材を用いていた。

これらを分析し参照することで、ロシアに関する知識を殆ど持たないもしくは偏りがある受講生に対して何をどのように提示していくべきかの検討を更に続けていく。
